EA121BX-1　スプレーガン(加圧式)　取扱説明書

このたびは当商品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。
使用に際しましては取扱説明書をよくお読みいただきますようお願いいたします。

◆仕　様

- 塗料供給方式…加圧式
- 使 用 圧 力…0.35MPa
- 吸　入　口…1/4"PF
- 吐出空気量…175ℓ
- 使用ｺﾝﾌﾟﾚｯｻｰ…1.85kw
- カップ容量…2.0ℓ
- ノズル径…1.0mm
- 両ホース全長…1500mm

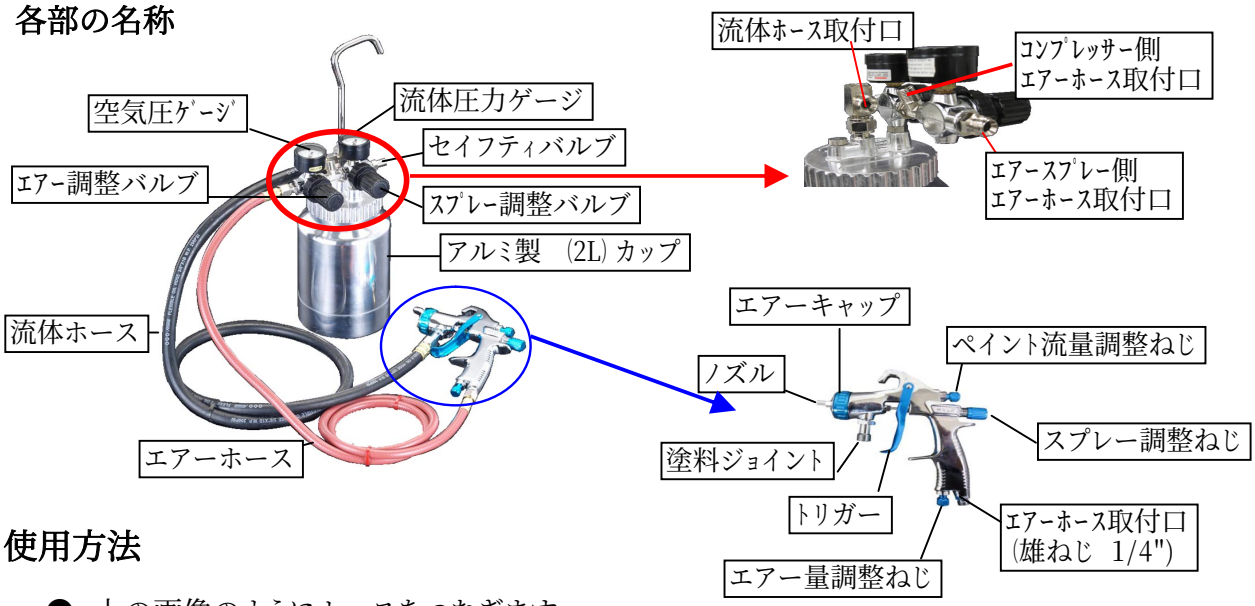
◆使用上の注意

- 作業時には作業に適した服装をしてください。ペイント用マスク・保護めがねを着用してください。
  場合によっては、耳栓やイヤーマフを着用してください。
- 次の場合はスイッチを切りエアーホースを外してください。
  ① 塗料を入れるとき（補充・交換・捨てる時など）
  ② 作業終了時
  ③ 異常を感じたとき
- エアー工具を運ぶときは、不用意にスイッチが入ることがあり、危険ですので、
  エアーホースを外してください。
- 自分や他の人にノズルガンを向けないでください。
- ワンタッチカプラーは使用しないでください。激しい振動で外れてしまう恐れがあります。
- ホースはホースバンドでしっかり止めておいてください。
- 最大圧力は0.35MPa（50PSi）を超えさせないでください。
- エアー工具を使用するときは、取扱方法、作業方法、回りの状態を把握して、慎重に作業してください。
- 作業場所や歩く場所は常に整理整頓し安全で適切な状態を保ってください。
- 作業工具は注意深く手入れをしてください。
  エアーホース、接続部、スイッチなどは損傷していないか、その他定期的に点検してください。
  握り部、スイッチは常に乾かし、きれいな状態を保ってください。
  清掃に使用した雑巾、手入れに使った布など燃えやすいゴミは、蓋付の金属性容器に入れ、
  適切な方法で廃棄してください。
- スプレーガンのホースを引っ張って運ばないでください。
- ホースは熱源、油、とがったものから離して保管してください。
- 作業前には、可動部の位置、取付け状態、その他運転に影響を及ぼす全ての個所に、
  異状、損傷がないか確認してください。
- 防爆性の環境内での使用は意図していませんので、絶縁はされていません。
- 溶剤やコーティング材は霧状になると燃えやすい性質があります。
  可燃性ガスがたまらないよう、十分換気を行なってください。
  作業場所には、タバコや点火バーナー・溶接機など着火原因となるものは置かないでください。
- 作業現場には、消火器を備え付けてください。
- 塩化メチレンなどのハロゲン化水素溶剤は、アルミニウムと化学反応を起こす危険があり、
  爆発する恐れがあります。使用可能か否か、溶剤のラベルやデーターシートで確認してください。

◆ 使用する前に以下のことを確認してください。

- スプレーガンに汚れや破損箇所がないかどうか。
- 圧力を調整してください。過剰な圧力がかかるとうまく噴霧されません。
- 自分や他人にスプレーガンが向けられていないかどうか。
- エアー量調整とスプレー調整が、適切な圧力に調整されているかどうか。
- スプレー使用中はエアーキャップが前後に平行移動します。
  これにより、最大範囲にセットされているか確認してください。
- 塗装パターン
  塗装距離は　15～20㎝くらいとってください。
  推奨空気圧は0.35MPa（50PSi）です。これを超えないようにしてください。

◆ 各部の名称



◆ 使用方法

- 上の画像のようにホースをつなぎます。
- アルミ製カップに塗料を入れ、蓋をします。
- エアー調整バルブを時計方向に回し、閉じます。
- 流体圧力ゲージを0.2MPa (35PSI)から0.35MPa (50PSI)にセットします。
  (噴霧する溶剤により異なります。)
- エアーコンプレッサーのホースをコンプレッサー側エアーホース取付口につなぎます。
- カップに圧力をかけます。(噴霧する溶剤により異なります。)
  例えば…エナメル:69kPa (10PSI)、ラッカー:34.5kPa (5PSI)

〔圧力をかけるためには時計回りに、圧力を減らすためには
反時計回りにバルブを回してください。〕

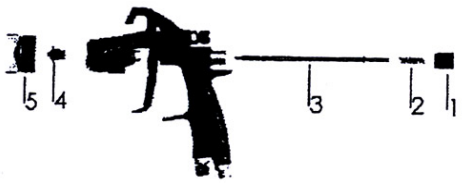
- エアー調整バルブを開きます。
- トリガーを引き、平面に噴霧を試し、
  ペイント流量調整ネジとスプレー調整ネジで圧力を調整してください。

◆参考までに

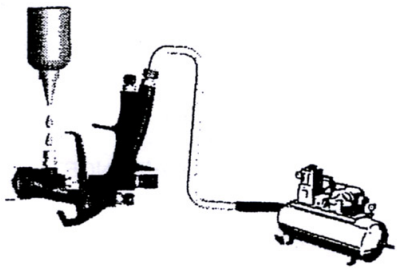
・最も効率的な噴霧気圧は低い気圧です。
・オーバースプレーを最小にして、より多くの塗布面積を増やし、
塗料の塗りすぎを防ぐことができるでしょう。
・きめ細かいスプレーが必要ならば、空気圧を上げ、粗いスプレーが必要ならば、
空気圧を下げて、効率の良い噴霧気圧を維持するため、微調整してください。
・カップのふたを取りやすくするため、漏れを防いでください。

◆ クリーニングとメンテナンス

1. ノズルの取外し方法
   ① ノズルを取外す前に、スプレー調整ねじ (1)
   スプリング(2)、ニードル(3)、ナット(4)を外します。
   ② 付属のレンチかスリーブで取外してください。
   **※不適正なツールを使用するとノズルを
   損傷する場合があります。
   適正なツールを使用してください。**



2. ノズルの取付方法
   ① ノズルの取付、スプレー調整ねじのスプリング、
   ニードル、ナットを取付けます。
   ② 圧縮空気のホースを取付け、塗料ジョイントに
   溶剤を滴しトリガーを押します。(ガスを逃がすため)
   ③ 塗料ジョイントで泡が出るかどうかチェックしてください。
   泡が出た場合、取付を再度やり直してください。
   泡が出なかった場合、正しく取付けられていますので、使用可能です。



3. エアーガン部分

①タンクのサイフォン部分と、ガンの接続部分だけ、溶剤にひたしてください。
② 固着したペイントは固めのナイロンブラシと溶剤で落としてください。
③ 本体を溶剤に漬け込まないでください。
a. パッキンのオイル分が融けてなくなりパッキンが乾くため
b. 本体表面のコートが融けてなくなり、本体の劣化が速くなるため
c. 汚れた溶剤で空気穴がふさがってしまうため
④ 溶剤に浸した布でガン本体の汚れを拭き取ってください。
⑤ スプレーガンに注油してください。また次の部分にも注油してください。
a. 液体ニードルパッキン部分
b. エアーバルブパッキン部分
c. トリガーの回転軸部分
⑥ シリコンの詰まった箇所には注油しないでください。
この箇所への注油は仕上げの支障になります。

4. カップ部分

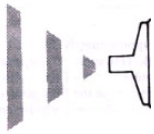
① カップのエアー調整バルブを空気圧ゲージが『0』を指すまで反時計周りに回し
カップの中の圧力を下げます。
② カップの中のサイフォン部分とカップカバーを緩めます。
③ エアーノズルを2回回し緩めます。ペンキをカップに戻すため、トリガーを引きます。
カップとカップカバーを外します。
④ 1/4～1/2カップのきれいな溶剤を入れ、カップカバーを取付、
約69kPa(10PSI)に流体圧力を設定します。
⑤ スプレーガンでエアー調整バルブを閉じます。
⑥ トリガーガンを引いて、溶剤が流れるか確認してください。
⑦ 溶剤を捨てエアーノズルを掃除します。ノズルとカップを乾かします。
不純物が噴出し口にある場合は、歯ブラシなどできれいにしてください。
ワイヤーブラシはノズルを破損しますので、使用しないでください。
⑧ カップの中に溶剤が残らないよう注意してください。溶剤の揮発ガスはガスケットの
耐用年数を短くする傾向があります。カップとカバーは別々に保管してください。

注 意 ・カップがひっくり返ったり、大きく傾けられた場合、ペンキが
カップカバーからレギュレータ側に漏れることがあります。
このような場合、すぐに掃除をしてください。

5. エアースプレー

① エアコンプレッサーの上、またはそばに排油器や排水器を取付けないでください。
空気の圧縮を行なっている間、空気の温度は著しく上昇します。
空気が室温まで下がると、空気がスプレーガンに送られる通気管上に結露します。
従って、必ず排油器や排水器は、空気供給システムの圧縮空気温度が最も低くなる箇所に
取付けてください。
② 空気管の排水を正しく行なってください。
結露した水分が空気受けに戻るよう、空気全体をコンプレッサーに向けて傾けてください。
溜まった水は、空気受けで排水されます。空気管の最も低い箇所に水が溜まります。
当該箇所には簡易に取付・取外しができる排水装置を取付けてください。
③ 設 置
本品は頑丈な構造をしており、すばらしい性能を発揮するよう作られています。
この製品の構造・使用方法・メンテナンス方法を正しくご理解いただいているかどうかにより、
製品の寿命と操作効率が変わってきます。
④ 重力フィード式カップの取付
噴霧気圧は、排出装置により調整されます。液体量は、スプレーガン上の調整ツマミ、
塗料の粘度および気圧により調整します。

◆ パターン失敗例と直し方

失敗パターン	症　　状	直 し 方
	サイドポートAを 乾いたペンキがふさぎ、空気の流れを制限して しまっています。 本流がサイドポートBの、流れだけになりますのでﾊﾟﾀｰﾝが偏ります。 	シンナーでサイドポートに固まったペンキを溶かしてください。 絶対に穴を金属の針などで突かないでください。
	ノズルチップにある、穴(C)の回りに乾いたペンキが付着し、エアーノズルの穴をふさぎ、圧力空気の流れを悪く して います。 また、エアーノズルの緩みによっても発生します。 	エアーノズルをはずして、チップをシンナーに少し浸した布で拭いてください
	スプリットスプレー、或は中央が途切れてしまう塗装パターンについて (1) 空気圧が高すぎる (2) 薄い塗料で広すぎる面積に吹き付けようとした。	(1) 空気圧を下げてください。 (2) ペンキの流れ込む量を増やし、スプレー調整ネジを右に回してください 塗装面は小さくなりますがスプリットパターンはなくなります
	(1) ニードルバルブの回りにペンキなどが固着し、空気が流体バルブの方に流れ込んでします (2) ノズルと本体のシート部分が汚れている或は、ノズルの締まりがゆるい (3) カップのスイベルナットの締まりがゆるい	(1) ナットをバックアップします。 取外し注油し、手で締め直してください。 ひどい場合は取替えます。 (2) ノズルをはずし、シンナーにひたした布できれいに清掃してください (3) ｽｲﾍﾞﾙﾅｯﾄをしっかりと締めてください

◆ 問題点と直し方

問 題 点	症　　状	直 し 方
スプレーパターンが正しくない	① スプレーガンの調整が正しくない ② エアーキャップが汚れている ③ ノズルの先端に何か詰まっている ④ ニードルがうまく機能していない	① ｽﾌﾟﾚｰｶﾞﾝを注意深く手順に従い再調整する ② ｴｱｰｷｬｯﾌﾟをきれいにする ③ 清掃する ④ 油を注す
丸くスプレーできない	ｴｱｰ量調整ねじが適切にｾｯﾄできない	清掃するか取替えてください
スプレーできない	① ガンに圧縮空気がない ② ﾐｯｸｽｴｱｰﾉｽﾞﾙとﾀﾝｸの圧力が低い ③ 塗料の濃度が噴霧能力より重い ④ ｽﾌﾟﾚｰ調整ねじが充分開いていない	① スプレーと空気の流れを確認してください ② タンクの圧力を高めてください ③ 塗料を薄めるか、圧力を上げてください ④ スプレー調整ねじを開けてください
ナットパッキングから漏れる	① ナットパッキングが緩んでいる ② パッキングがするへっている	① 締めなおしてください ただし、ニードルのねじ山が壊れるくらい強く締めないでください ② パッキングを取替えるか注油してください
ノズルの先から塗料が滴り落ちる	① パッキングが乾いている ② ニードルが緩んでいる ③ ナットパッキングが締まっている ④ ノズルかニードルがすりへっている	① 注油してください ② 注油してください ③ 調整してください ④ 取替えてください
うすくて、ざらついた仕上	① ガンが塗装面から離れすぎ ② 噴霧圧力が高すぎる	① 塗装面に近づけてください ② 圧力を調整してください
オレンジの皮のようにデコボコした仕上	塗料面に近づき過ぎている	塗装面から離してください

株式会社 エスコ
本社／〒550-0012 大阪市西区立売堀3－8－14
TEL (06) 6532-6226　FAX (06) 6541-0929